

新年度にあたって

昨年度は、私達の目指す理念と行動指針の方向はおおむね達成できました。ご協力有り難うございました。

本年も引き続き一羊館の行動指針に基づき、多職種協働にて、「老健の介護」はそのまま「生活リハビリ」です、という考え方のもとに、日常生活の自立支援に視点を置いた介護（広義）即ち生活リハビリ（広義）を実践して行きましょう。

仕事をする上での基本ですので何度も繰り返しますが、多職種協働を実のあるものにするために、

- 話し合い3原則：
- ①相手の意見は決して否定しないでしっかり聞く。
 - ②自分の意見はしっかり言う。ポジティブ表現で！
 - ③正解は一つではないことを自覚して自制する。

そしてハウレンソウ（報告・連絡・相談）

を徹底することが大事です。

そして、介護の在り方・職場でのコミュニケーションの在り方を、常により良い方向に進めるべく遠慮の無い前向きな提案活動を期待致します。

また、事例検討会の時にもお話致しましたが終末期でさえも終末期リハという考え方があると云うことをお忘れ無きようお願い致します。

終末期リハ：死を目前にしても人は最期まで、人の手を煩わせたくない、家族に少しでも迷惑かけたくない、良い想いだけを残したい、自立したい、などの「希望＝光＝生きる気力」は持ち得ると云います。その様な思いを叶え届けるために、終末期リハはあります。

終末期（人生の最終段階）リハという言葉は馴染みがないと思いますが、そろそろはっきりしたイメージを持つべき時代に入ってきたと思われれます。

回復の見込みが著しく低下した状態に対するリハビリテーションですが、決して悲しいイメージを持つものではありません。最期の瞬間までその人らしく生活していただくために重要なリハビリテーションです。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

